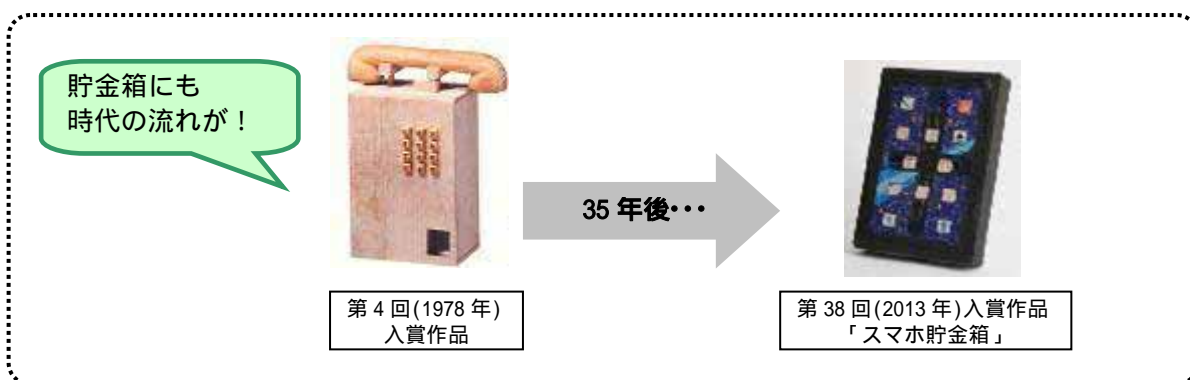


第 39 回 ゆうちょアイデア貯金箱コンクールについて

今年で 39 回目！ 時代を映す鏡として続いています

「ゆうちょアイデア貯金箱コンクール」は、貯金箱の作製を通じて、次代を担う子どもたちの貯蓄に対する関心を高めるとともに、造形的な創造力を伸ばすこと等を目的として開催しています。

1975 年の第 1 回開催以来、今回で 39 回目を迎える長い歴史を持つコンクールです。

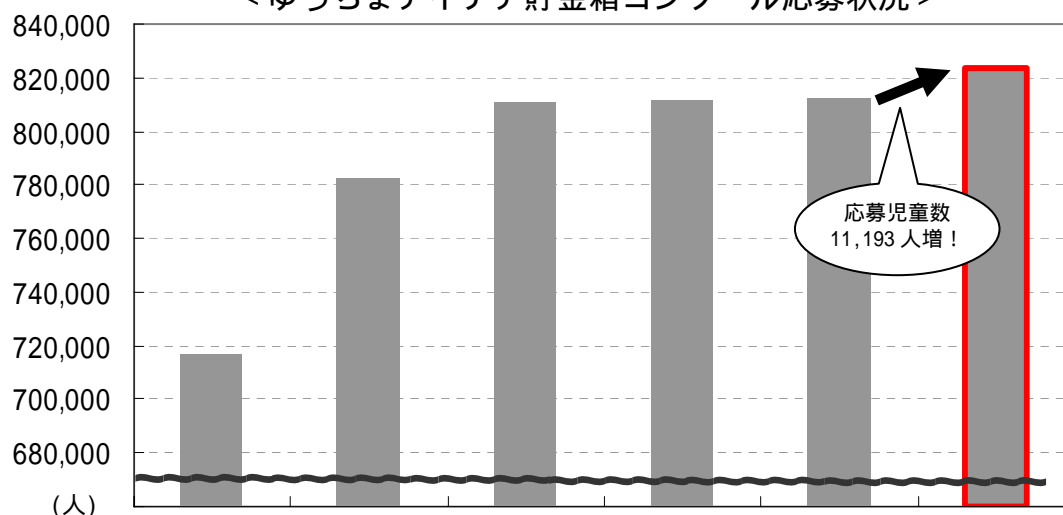


少子化が進む中、応募数は毎年増加傾向

全国の小学生数は、少子化の影響もあり年々減少し、今年は過去最低を更新。過去 5 年間で見ると、約 460,000 人減となりました。(2009 年度：7,063,606 人 2014 年度：6,600,019 人)

そのような中、当コンクールでは、昨年を 1 万人以上も上回る数の子どもたちからの応募がありました。

< ゆうちょアイデア貯金箱コンクール応募状況 >



【参考】 全国の小学生数	(2009年) 7,063,606 人	(2010年) 6,993,376 人	(2011年) 6,887,292 人	(2012年) 6,764,619 人	(2013年) 6,676,920 人	(2014年) 6,600,019 人
	-70,230 人	-106,084 人	-122,673 人	-87,699 人	-76,901 人	

全国から 82 万人以上の応募あり！

今年度のコンクールには、11,392 校から 823,919 人の応募がありました。

この数は全小学校数の 54.6%、全小学生数の 12.5%です。応募数は、前年比 11,193 人増となりました。

	2009 年度 (第 34 回)	2010 年度 (第 35 回)	2011 年度 (第 36 回)	2012 年度 (第 37 回)	2013 年度 (第 38 回)	2014 年度 (第 39 回)
応募児童者数	716,955(人)	782,463(人)	811,077(人)	811,386(人)	812,726(人)	823,919(人)
(参考) 全国児童数	7,063,606(人)	6,993,376(人)	6,887,292(人)	6,764,619(人)	6,676,920(人)	6,600,019(人)
応募児童者数割合 (応募児童者数 / 全国児童数)	10.15%	11.19%	11.78%	11.99%	12.17%	12.48%
応募小学校数	11,416(校)	11,905(校)	11,719(校)	11,520(校)	11,527(校)	11,392(校)
(参考) 全国小学校数	22,258(校)	22,000(校)	21,721(校)	21,460(校)	21,131(校)	20,852(校)
応募小学校数割合 (応募小学校数 / 全国小学校数)	51.29%	54.11%	53.95%	53.68%	54.55%	54.63%

(全国児童数・全国小学校数は、文部科学省「学校基本調査」から引用)

今年で 39 回、親子 2 世代に認知されているコンクール

当コンクールの第 1 回開催は昭和 50 年(1975 年)。当時の小学 1 年生が、今では 40 代半ば。その昔、貯金箱を作成した両親の話を聞いて、当コンクールにチャレンジした子どもも少なくありません。

親子 2 世代に渡って認知度がある工作コンクールとして、親しまれています。

審査員からのお言葉

当コンクールで長年審査を実施いただいている立教大学 富安敬二教授から、コンクールに関するコメントを紹介します。

絵画のコンクールは多数ありますが、工作のコンクールは極めて少なく、これだけの規模で長年続けられているのは、このコンクールが唯一といってよいと思います。このコンクールには非常に優秀な立体作品が集まるため、審査には相当苦勞しますが、それだけにやりがいも大きく、毎年とても楽しみにしています。

作品の完成度は年々上がっていますが、今年も子どもたちの創意工夫がいっぱい詰まった作品ばかりでした。シンプルなものから複雑なものまでさまざまな作品がありますが、審査にあたっては、発達段階に照らし合わせて、アイデアや表現力の優れている作品を評価しました。

立体物を作製することは、構造を考え、様々な材料を用いることから、多面的な見方を身に付けることができますので、児童の成長においてこのコンクールは非常に大きな意義があるものと思っています。ぜひ今後も、多くの子どもたちに参加してもらいたいと思います。

また、来年はこのコンクールも 40 回目を迎えますので、この機会にさらに多くの子どもたちに参加してもらいたいですね。

<参考> 図画工作に関する調査 ～数字で見る小学生の図工事情～

工作が好きなのに、工作する機会が少ない傾向あり

「図工の授業で絵を描いたり、工作をすることが好きか」という問いに対して、絵を描くのが好きだと回答した小学生は72.7%。一方、工作が好きだと回答した小学生は77.6%と工作の方が高くなっている。

しかし、「普段の生活の中で、絵を描いたり、工作をすることがあるか」という質問には、絵を描く機会のある小学生が64.3%に対して、工作をする機会のある小学生は46.3%。

工作に興味関心が高いものの、普段の生活においては工作をする機会の少ない状況が見て取れる。

<図工の授業で工作・絵を学ぶことは好きですか？>			一方で…	<普段の生活の中で工作や絵に取り組むことはありますか？>		
	好き	嫌い			ある	ない
工作	77.6%	22.3%		46.3%	53.4%	
絵	72.7%	27.2%		64.3%	35.6%	

国立教育政策研究所教育課程研究センター
「特定の課題に関する調査（図画工作・美術）」(H23.3公表)より引用